

## 一般演題1-2

### 難治性下肢潰瘍に高気圧酸素治療を行い著しい改善が得られた1例

原 康隆<sup>1)</sup> 坂口政人<sup>1)</sup> 森田恵一<sup>1)</sup>  
 小崎健一郎<sup>1)</sup> 井上香奈<sup>1)</sup> 大塚麻由<sup>1)</sup>  
 高岡 大<sup>1)</sup> 梅橋直史<sup>1)</sup> 中川辰徳<sup>1)</sup>  
 稲盛孝祐<sup>1)</sup> 米倉健太郎<sup>2)</sup> 常盤光弘<sup>3)</sup>  
 新納正毅<sup>4)</sup>

- |    |           |        |       |
|----|-----------|--------|-------|
| 1) | 公益財団法人慈愛会 | 今村病院分院 | 臨床工学科 |
| 2) | 公益財団法人慈愛会 | 今村病院分院 | 皮膚科   |
| 3) | 公益財団法人慈愛会 | 今村病院分院 | 泌尿器科  |
| 4) | 公益財団法人慈愛会 | 今村病院分院 | 脳神経外科 |

(はじめに)

当院で平成20年10月から高気圧酸素治療(以下HBO)を開始して4年目を迎える。今回、重度の難治性潰瘍の症例に対しHBOを行い著しい改善を示した1例を経験したので報告する。

(症例)

T.M 59歳 男性

・既往歴

慢性腎不全(原疾患不明)

H13年 血液透析導入

・経過

平成23年1月8日頃より左下肢に点状紫斑出現、徐々に悪化し水疱・一部黒色潰瘍化していた。近医の皮膚科で処置継続していたが、患者の症状改善見られず1月27日当院へ入院となった。

入院後、週3回の血液透析と皮膚科での処置を続けたが、両下肢の潰瘍の改善は見られず右足背の臍が露出していた。4月8日から皮膚科よりHBO開始の指示があり、週3回 100%酸素で2気圧(2ATA)加圧での治療を開始した。

治療装置は第1種装置 川崎重工 KHO-2000で純酸素加圧 常用治療圧力は2ATA(0.1MPa, 1.0Kgf/cm<sup>2</sup>)治療工程は加圧15分、保圧60分、減圧15分でトータル90分となる。

治療経過①:当院へ入院となった時点での足の状態。点状紫斑出現、徐々に悪化し水疱・一部黒色潰

瘍化している。

治療経過②:皮膚科より、HBO開始の指示が出る前の両足の状態。右足背は臍が露出している。そのほかの足潰瘍も見受けられる。透析を受けており免疫力の低下も考えられ、治療は難航するだろうと思われた。

治療経過③:HBOを開始して7回目終了時点での両足の状態。治療開始後1週間ほどで肉芽が出現し、露出していた右足背の臍の周囲組織も盛り上がってきた。そのほかの足潰瘍部分も改善してきている。

治療経過④:HBO開始9回目で右足背の臍は、ほとんどが組織に覆われた状態となった。

その後、皮膚移植が決定するが炎症反応上昇、発熱があり2週間程度HBO中止となった。炎症反応が上昇した原因は、左下肢第四・五趾創部からの感染と考えられた。抗生剤の投与により炎症反応が収まり、週3回でHBO再開する。

炎症反応(CRP)推移:炎症反応(CRP)が下がってきた時点からのHBO開始であったが、左下肢第四・五指の感染により発熱・CRP上昇が見られた。2週間程度でCRPも低下・発熱も収まりHBO再開となる。

その後、潰瘍部分の著しい改善により皮膚移植の必要もなく7月1日HBO終了し、退院となった。

(考察)

今回の難治性潰瘍は今まで私共が経験したことがないほど重度の難治性潰瘍であったが、HBOの酸素効果による組織の活性化・静菌作用など患者自身の自己治癒能力が高まったと考える。

また、HBOに加えて、皮膚科での処置や投薬・週3回適切に行われていた血液透析などそれぞれの治療効果が相互に作用した結果と考える。

今後も他の診療科との連携をとることにより大きな治療効果が得られる治療法と考える。